

# センター通信 第259号

2009年6月12日発行

名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro  
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニール新栄301号  
郵便振替 00840-8-40765 [名古屋エスペラントセンター]  
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/>



3月23日夕方、鈴木善彦さんの招待で「旧友トーマス・ハラスさん歓迎会」がセンターでありました。くわしくは8p.

撮影：山田義

## 目次

2009維持員総会報告 -----	2	エスペラント講座・案内チラシの一案 ----	9
2008会計報告 鈴木善彦-----	3	全国いっせい春のエスペラント講習会 --	10
2008年度出版会 山口真一-----	5	Fest-libro -----	11
2008年度図書部 会計-----	6	関西大会参加-----	12
八ヶ岳エスペラント館の催し 山田義-----	7	Kiel mi fariĝis uniciklulo IkaiYosikazu-	13
トーマス・ハラスさん歓迎会 山田義-----	8	編集後記 -----	14



## 2009年名古屋エスペラントセンター維持員総会報告

2009年度のセンター維持員総会が2009年3月14日(土)午後3時より開かれ、前年の報告と今年の計画が話し合われました。

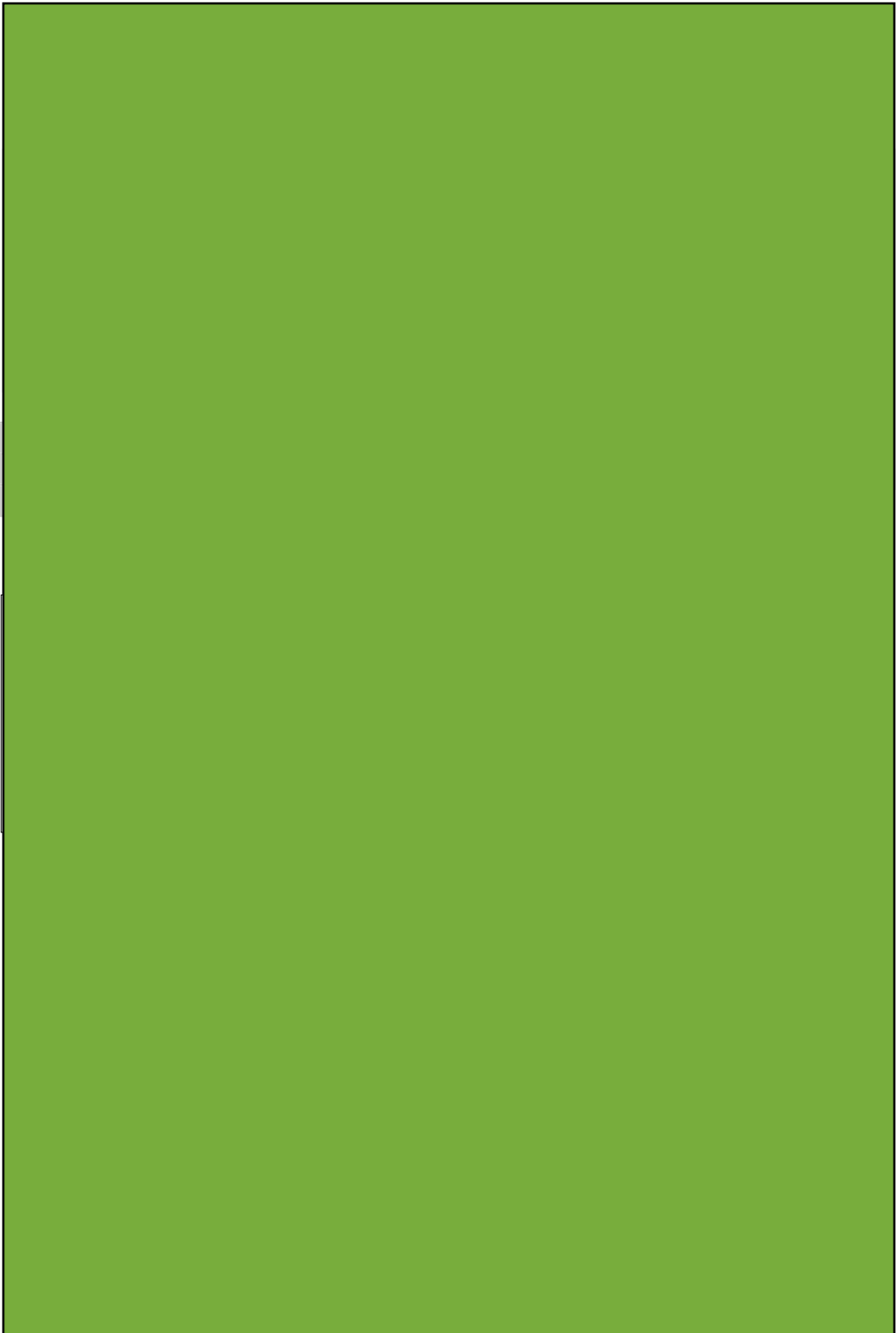
議題 前年度の活動などの報告と今年度の活動などの計画  
その他

名古屋エスペラントセンターはその規約第8条に「センター維持員総会」は全ての維持員により構成される「センター」の最高機関である。

センター総会では、センター委員の選出が行われ、今までの委員は全員留任、また前田可一さんが新任ということになりました。総会では留任委員の今年の担当を決めてなかったので、5月11日第2回センター委員会（出席：山田、前田、山口、猪飼、鈴木）で確認しました。

### 事務分掌の確認

委員長	山口真一
会計	鈴木善彦
企画	猪飼吉計
講習会	黒柳吉隆
ホームページ	湯浅典久 山口真一
センター通信	山田義
蔵書	山田義 猪飼吉計
図書・出版	山口真一（会計・帳簿事務）
総務	前田可一



## 総会資料

「センター通信」担当委員から

2008年は第255号から第258号まで発行できた。

紙で110部、PDFで7通、e-メールテキスト（盲人用）で2通を送った。

今までは、定型80円で郵送するための「センター通信」を三つ折りにしていたが、クロネコメールを利用すれば80円で折り目なしで送ることができる。

編集方針として、維持員相互の交流、研究発表の場としたい。

センターの蔵書（辞書、学習書、雑誌、機関誌、文芸書など珍しいもの）を写真添えて所見を紹介したり、東海連盟の活動、東海大会の記事、東海地方の運動記事を積極的に載せる。東海地方の活動年配者を訪問して記事をみんなで書きたい。

NEC講習担当委員による学習会が市内守山で予定通り続いています。

2月は火曜日の午後、志段味（しだみ）会館で La Unua Kursolibro を終了したあと、3月からは、竹内義一・タニヒロユキ著「エスペラント会話教室」をテキストを使います。

4月以降も受講生の希望で続けていきます。

### 5月11日第2回センター委員会

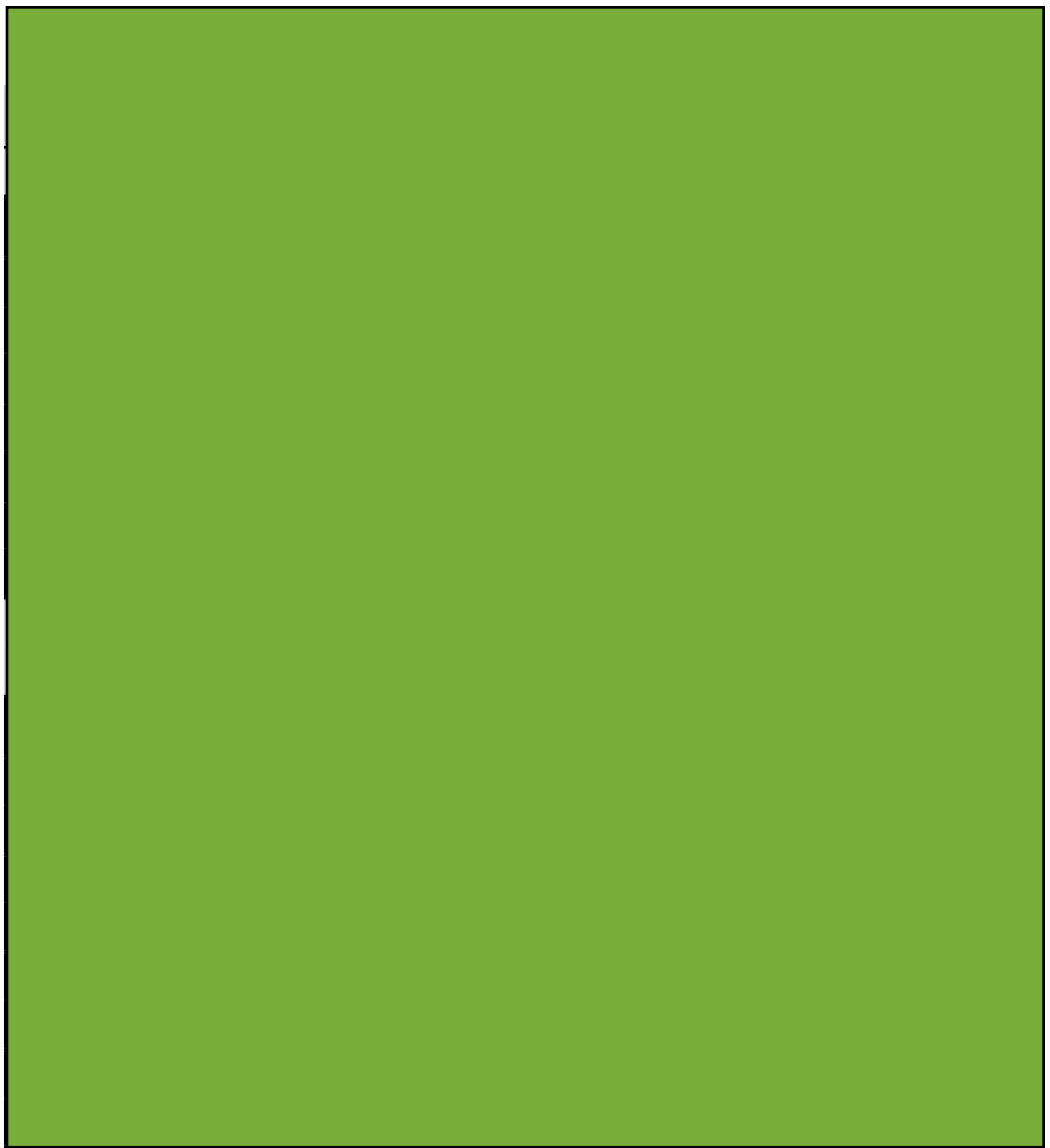
事務分掌の確認のほか話し合われました。

- ・伊藤俊彦さんより雑誌のバックナンバー贈与の申し出があり受け入れることにした。
- ・「センター通信」は猪飼吉計さん担当で今後、名古屋市の観光、歴史、地理、産業などの記事を載せることとした。
- ・今年のザメンホフ生誕150周年を記念してザメンホフ祭企画の準備に入った。
- ・到着郵便物の整理を進める。
- ・以前入力した「センターの蔵書ファイル」（猪飼さん作成のエクセルファイル）はセンター委員には配信され、今後役に立てる。

前田可一

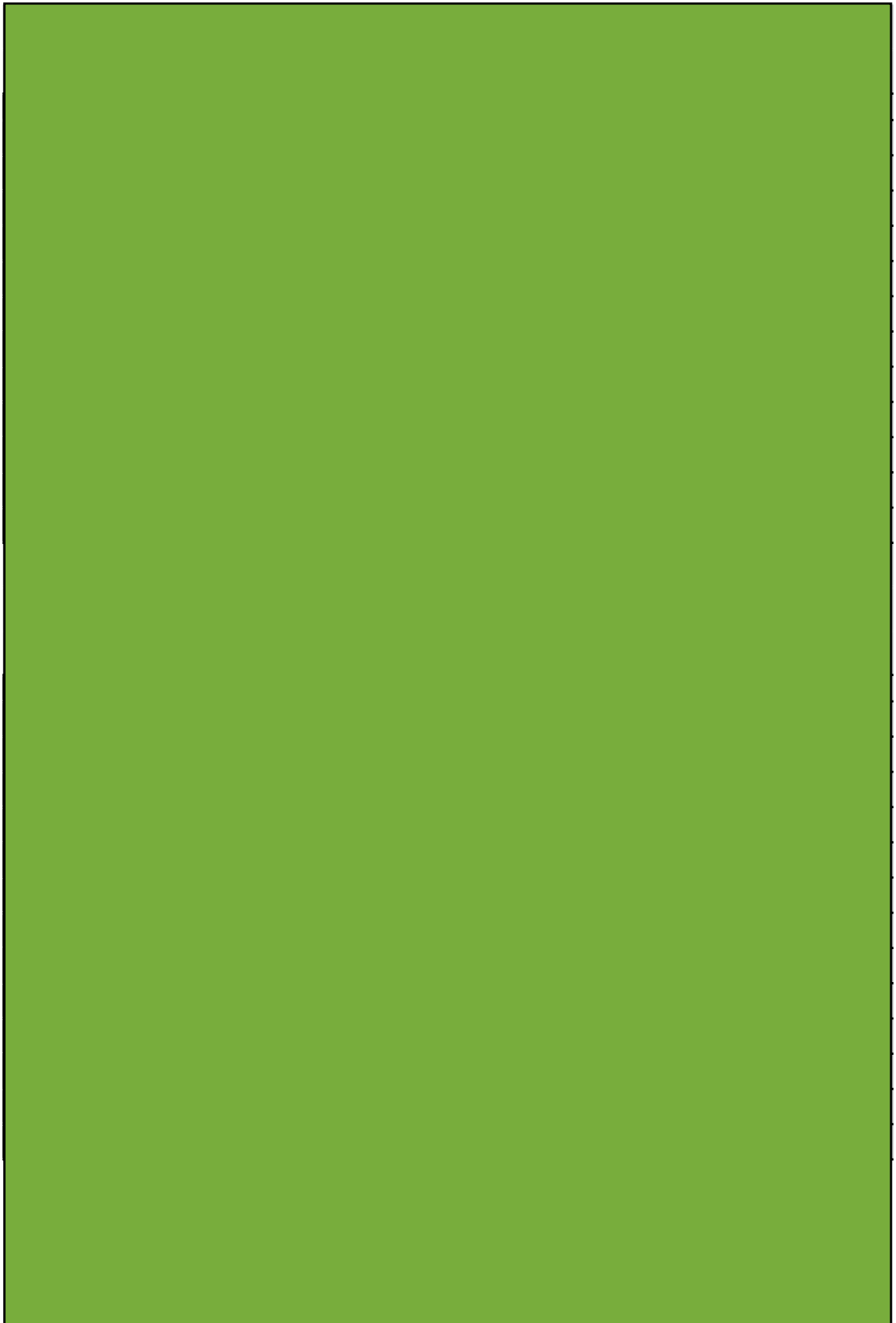


写真は、1980年創刊以降の“FONTO”の合本（センター所蔵）。欠落号があり製本が進んでいなかったが、伊藤さんの提供で2006年の最終巻まで全巻合本になる見通しだ。



世界エスペラント協会UEAは, "UEA Viva"を始  
めました: <http://www.youtube.com/UEAviva>  
Google やYahoo!などから <ueaviva> で検索で  
きます。





## 八ヶ岳エスペラント館の「エスペラントで歌う会」

去年に続いて今年の5月の連休も、八ヶ岳エスペラント館の当直をした。申込利用者を単に待つだけではいけないので、「エスペラントで歌う会」を一泊二日で呼びかけた。そこで歌って楽しむ歌を楽譜つきで18p.の冊子にして、“Kantu en Esperanto”として準備した。家でも練習が出来るようにとCDも作って添付した。メロディーの演奏や歌唱も入れた。初日は7名、夕食後、ほかの宿泊利用たちもさそって歌い、生のエスペラントの歌を紹介できた。

翌日は、顔を出してくださった近所に住む合唱好きの富石暉美さんの自宅に招いていただき、ピアノに合わせて練習した。“Donu al ni Vian pacon”という中世の修道院を思わせるような輪唱を練習した。歌はハーモニーとメロディーとリズムだ。



昼食をいただいたあと、E-Domoにもどり、岩谷満さん夫妻のマンドリンとキーボードの演奏を楽しみました。10月の甲府日本大会の前後に予定している「八ヶ岳エスペラント館の日」に向けて、演奏や司会や料理のリハーサルとなった。（山田 義）

## 甲府大会の行き帰りは……、八ヶ岳エスペラント館の日

八ヶ岳エスペラント館では今年秋の甲府大会の日程に合わせて八ヶ岳エスペラント館の日・大会前後を企画しています。大会会場最寄の甲府駅から1時間ほどです。日本大会の前または後に八ヶ岳エスペラント館を体験できるチャンスです。

### 1. 日程

大会前・八ヶ岳エスペラント館の日：10月08日 午後—10月10日 午前

大会後・八ヶ岳エスペラント館の日：10月12日 夕刻—10月14日 午前

### 2. 募集定員：各12人

### 3. プログラム（暫定、前後期とも共通）

第1日：受付、夕食、懇親会

第2日：朝食、講演会、[昼食・遠足]、夕食、懇親会  
(マンドリンのミニコンサートなど)

第3日：朝食、解散

### 4. 参加費：10,000円（朝夕4食つき）

お申込みは人数、代表者氏名、連絡先、「大会前」  
「大会後」の別をyamadapiano@mac.com にご連絡ください。



# トーマス・ハラズさん歓迎会

【写真】 1 p.

山田 義

3月23日夕方、鈴木善彦さんの準備で「トーマス・ハラズさん歓迎会」があり、私も協力・参加した。

トーマスさんが泊まっていた角谷さん宅へ車で迎えに行きセンターまでいっしょに行った。彼は30年前に名古屋にいたことがあり、当時のNECのメンバーと交流があった。懐かしい名古屋へ行きたいという電話が数日前に鈴木さんにあり、急遽歓迎会となった。この歓迎会が済むと、鈴木さん宅に1泊、次の日は犬山の後藤好美さん宅に1泊となっており、月末にはセントレアから日本を去るということだ。

センターまでの夜道はカーナビに任せて二人でしゃべり続けた。家族や仕事のこと、エスペラント歴のことなどを話した。ハンガリーのスズキ自動車日本語の通訳をしており、つい先だって定年で退職し、こうして懐かしい日本人との再会を楽しむ旅が実現したのだそうだ。ときどき日本語が出てくる人だ。丹羽さんの消息も知っていた。

歓迎会に参加した8人のうち3人が30年ぶりの再会に沸いた。ただし、お互いが握手もハグもない日本式歓迎だった。

センターには、来訪者に一言書いてもらうための Ora Libro があり、今回も書いてもらった。あとでそのページに記念の写真を貼ることにしてある。トーマスさんは昔のセンター事務所を知っているので今回はきれいで広くなった部屋のことを書いた。書き終わると、エスペラント文を読み上げるから日本語にしてみんなに聞かせてほしいと言われ、私がエスペランティストに通訳した。大雑把な通訳でありきたりのあいさつ文を並べたら日本語の分かる彼には満足ではなかったようだ。

別かれるとき、メールでアドレスを教えるからヨーロッパに来ることがあったら連絡せよと言ってくれた、ブダペストへ行くことがあったら1週間前にでも連絡してみようと思う。1ヶ月後には約束どおり、彼から短いメールが届いた。

あとになって、名古屋エスペラントセンター活動史をセンターのホームページで読んだら、名古屋を訪れた主な外国人(1979年)の中にこの人の名前があった。「8月29日 S-ro Thomas Halasz (イスラエル) 月曜日の会で講演」と記されてある。



寿司を食べ終わって



## エスペラント講座・案内チラシの一案

講習会をやるなら魅力ある企画と案内状がほしい。ここに参考例を載せておく。

### 初級エスペラント講座の案内

#### Kurso de Esperanto por Komencantoj

主催者名 名古屋エスペラントセンター（461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10 ユニークビル新栄 301号）（代表者とその住所、電話FAX（午前9時から午後9時まで）電子メールアドレス、ホームページアドレス）

後援団体名 JEIなど

講習日程、回数、魅力ある講師と教材の提示

講習会場

講師の紹介

講座の終了後はどうするのか。外国の文通相手を紹介と手紙文の指導

学習雑誌購読の案内と紹介

休んだときは宿題を電子メールやファックスで添削

受講会費は、全教材・添削料・送料などを含めて〇〇円。

（この講座の会費の余剰は、エスペラントの新しい教材の開発や広報活動にあてます）

ローマ字が分かる人なら、だれでも受講できます。

募集人数・教材名（本とCD）・練習問題集

全16課、各課平均20ページの分かりやすい教材で、エスペラントを基礎から学ぶことができます。

好きな時に、自分のペースに合わせて勉強したい人には通信講座も紹介します。

当センターではエスペラント学習のための 에스日辞典、日 에스辞典、教科書、読み物など手に取って買うことができます。

---

### 申し込み方法

名前+ふりがな、郵便番号+住所、電話番号+ファックス番号、電子メールアドレスと受講会費を添えて講習の初日にお申し込みください。

## 「ザメンホフ生誕150年記念 全国いっせい春のエスペラント講習会」の一覧。

沼津エスペラント会が情報を収集し、<http://www2.tokai.or.jp/esperanto/index.html>に載せています。全国で工夫を凝らした講習会が一目で分かります。ここの日付は初日のみを記載しました。

### ■2009年■

- [熊本県熊本市] 3月21日「入門ミニミニ講習会」熊本国際協会主催のSAKURA祭りにて。
- [奈良県奈良市] 3月28日「エスペラント無料体験会」奈良市立中部公民館にて。
- [静岡県掛川市] 4月上旬から「入門講習会」掛川市第5地区センターにて。
- [東京都新宿区] 4月1日「入門講習会」エスペラント会館にて。全8回教材費込みで4,000円。
- [大阪府堺市] 4月2日(木)「無料初級講座」堺市民活動サポートセンターにて。費用無料。
- [熊本県宇土市] 4月2日「入門・初級講習会」毎週木曜。野村忠綱さん宅にて。受講料無料。
- [熊本県宇土市] 4月3日「中高生向け入門・初級講習会」金曜の夕方。野村忠綱さん宅にて。
- [広島県広島市] 4月4日「入門講習会」土曜、広島留学生会館1階ロビーにて。教材費の実費。
- [高知県高知市] 4月6日「入門講座」毎月2回。平和資料館・草の家(高知市)。月1000円。
- [京都府城陽市] 4月8日「初級講習会」水曜午前。城陽市福祉センター。教科書代3500円。
- [兵庫県神戸市] 4月11日「一日講習会」13h—15h。神戸生青少年会館(JR三宮駅東)にて。
- [東京都杉並区] 4月12日「第26回 春の一日公開講座」杉並区阿佐ヶ谷地域区民センターにて。
- [東京都荒川区西日暮里] 4月14日「エスペラントの基礎を楽しく学習しましょう！」毎週火曜全12回。会場はJR西日暮里駅から徒歩3分の同クラブ。参加費6000円。
- [兵庫県神戸市] 4月14日「一日講習会」18h30h—20h30。神戸生活創造プラザにて。
- [東京都杉並区] 4月17日「エスペラントで自己紹介 あんさんぶる荻窪」全6回。受講料3000
- [静岡県南伊豆町] 4月18日「エスペラント入門講座」19h—20h30。南伊豆エスペラント村
- [兵庫県芦屋市] 4月19日「芦屋エスペラント会入門講座」芦屋市民センターにて。1000円。
- [東京都調布市] 4月19日「エスペラント入門講座」仙川東部公民館(京王線千川駅下車4000円)。
- [東京都豊島区] 4月23日「エスペラント入門講座」第2・第4木曜日、南大塚地域文化創造館。
- [神奈川県横浜市] 4月25日「国際語エスペラント無料セミナー」かながわ県民活動サポートセンターにて
- [奈良県奈良市] 4月25日「エスペラント無料体験会」奈良市立中部公民館にて。
- [岩手県盛岡市] 4月26日「公開講座 国際語エスペラントの世界」いわて県民情報交流センターにて
- [宮城県仙台市] 5月3日「合宿講習会/2009年エスペラント全国セミナー」茂庭荘にて。
- [東京都新宿区] 5月7日「エスペラント入門講習会」エスペラント会館にて。点字教材あり。
- [神奈川県横浜市] 5月9日「第73回エスペラント入門講習会」かながわ県民活動サポートセンターにて。
- [東京都目黒区] 5月13日「エスペラント入門講習会」目黒区民センター(目黒駅徒歩7分)にて。
- [大阪府大阪市] 5月14日「大阪エスペラント会3日間無料講習」エビスビルAAホール本館にて。
- [宮城県仙台市] 5月19日「国際語エスペラント一日講習」仙台市民活動サポートセンターにて
- [奈良県奈良市] 5月23日「エスペラント無料体験会」奈良市立中部公民館にて。
- [宮城県仙台市] 5月26日「国際語エスペラント入門講座」毎週火曜日19h—20h30。全15回。
- [大阪府高槻市] 6月6日「国際語エスペラント無料入門講座」高槻市現代劇場(市民会館)
- [静岡県沼津市] 6月13日「エスペラント入門講座」隔週土曜日、沼津エスペラント会教室にて。
- [東京都三鷹市] 9月2日「世界中に友だちをつくりませんか」三鷹市井の頭コミセン新館会議室にて。

## Fest-libro



Fest-libro por la 75a naskiĝ-tago de Adolf Burkhardt と  
いうのは、Esperante Kaj Ekumene という本の副題であ  
る。この Esperante Kaj Ekumene は650ペーを超える  
本。Burkhardt 牧師が教会の説教台で語っている姿が表紙に  
ある。この牧師が2004年、天に召される前に出た本だ。

私は、Burkhardt という牧師には50年前に東京で会って  
いる。1965年のUKの礼拝が上野の下谷教会で開かれたとき  
礼拝説教をした人だ。この大会礼拝の会場準備は、淵田多穂  
理や多羅尾一郎というキリスト者エスペ란ティストが準備  
した。この二人に私は大会中にこのドイツ人牧師と同行する  
ように頼まれた。牧師は、都内のキリスト教出版社にタナカ  
ヒカルというエスペ란ティストを訪ねたいということだっ  
た。背丈の高いイギリス人マーフィーさんもいっしょだっ  
た。東京の地下鉄もほとんどしらない私は、この二人に連れ

られて「いのちのことば社」まで行ったことを覚えている。

その後雑誌や本で名前は見かけることが多かった。ルーテル教会の牧師でありカトリッ  
クの教育も受けた人であり Ekumenismo に熱心な人。この本の中で Einkorn 神父が書い  
ている。Ekumenismo とは宗教の共同運動ではなく、あくまでもカトリックとプロテス  
タントの共同である、と。しかし、この本の中で、ほかの寄稿者はキリスト教以外の宗教  
の項目を挙げて関連のエスペラント出版物を列記している。その中に budaismo の出版  
物にふれ NEC の会長でこの地方のエスペラント運動にも貢献している僧侶山口真一さん  
の翻訳の本2冊を挙げている。

Burkhardt 牧師はあの忌まわしい世界大戦の中に裕福ではない父親の息子として生まれ  
家庭教師などのアルバイトで勉学を続け戦後はアメリカに留学した。エスペラントは若い  
ときに知った。多才な人であり、その中に音楽があり賛美歌のエスペラント訳の仕事があ  
る。多羅尾さんが東京大会の礼拝のために日本人作詞のNanuka no Tabiji という曲を訳  
したがこの牧師が補填して Jam sepataga la vojaĝ' という歌でAdoru に載せている。

この牧師は、人から信頼され親しまれていたというのは、キリスト者エスペランティス  
ト国際連盟の機関誌 Dia Regno に載る記事からも納得していた。だからこそ、この本に  
は20数人もが寄稿している。原稿はエスペラント以外のことばでも寄せられている。  
Reinhard Hauptenthal が校訂し前文を書いている。それに、エスペランティスト牧師に  
関して賛美歌のエスペラント訳のことの論文もあり、そのほか、人類が文字文化をどう  
扱ってきたかを明瞭なエスペラントで語るページもある。グーテンベルグの印刷術を中心  
に現代の電子出版までを扱っている。印刷文字とか出版技術の進歩という変遷を一挙に読  
むことができ面白い。

その他キリスト教聖歌についても楽譜を織り込みながら16ページを費やしている記事も  
ある。ブルックハルド牧師は2度に渡る賛美歌集を編さんした。最初のは“Adoru  
Kantante”というプロテスタント教会の賛美歌集、2度目のADORU は大冊でありカト  
リックとプロテスタント共同の賛美歌と礼典。 山田義

## 第57回関西エスペラント大会 アカペラと抹茶

6月6日(土)～7日(日)、会場：高槻現代劇場 「今なぜエスペラント」

開会式では Heliko に KLEG 賞が授与された。小西岳さんが結成し育ててきた関西の混成合唱団 Heliko だ。アカペラである。でんでん虫のデザインをあしらったお揃いの黄色のTシャツを着て舞台に立つ。日本の歌、世界の歌、エスペラントの歌を小西さん編曲で歌ってきた。それらが評価されたことはうれしい。

混声と言っても最近までは男声は指揮をする小西さんのテノールと私のバスが入って辛うじて混声ということだった。関西大会では毎回数曲を披露してきた。日本大会でも舞台に立ったこともある。

高槻の大会では、土曜日午後の分科会に続いて開会式があり、その後講演、コンクール、演芸の夕べ、オークション、夕食会とプログラムはびっしり詰まっており、Helikoは演芸の夕べの取りをつとめた。「竹田の子守唄」、「夢であいましょう」、「消えない顔」の3曲。翌日の公開番組では、「おぼろ月夜」、「花の街」、「この広い野原いっぱい」の3曲だった。私はバスを歌う。しかし、先の舞台からリズム感のしっかりした男声テナーが2人加わったので隣で必死になって低音部を歌った。1曲以外は知っているメロディーではあるが、低音部の旋律は新たに覚え、ほかのパートとの掛け合いにも乗っていないといけな。エスペラントの歌詞もはじめて歌う歌もあり練習には苦労した。いくつかの知らない単語もあり調べて詩の意味を把握してないと歌いづらい。指揮者の下で曲想を表現する、楽器伴奏のないアカペラで歌うので四声部のハーモニーが聴かせどころでもある。

私にとって関西大会は、この Heliko でバスが役立っているという思いに励まされてこの数年続いて参加してきた。普段の大阪での練習に私は参加できないが、大会の前の1泊2日の合宿練習には参加してきた。今年は合宿そのものが取りやめになり、実際にみんなと合わせるのはこの大会中の隙間を縫って集まるリハーサルだけだった。前もって渡された楽譜で直前まで音取りを励んだ。

会誌の編集担当者の集まりでは6人がいろいろと実情や意見の交換をした。KLEG 加盟の地方会はそれぞれの機関誌を発行しているとのこと。編集者の影の力が関西の運動を支えているという印象だ。原稿集め、編集方針、校正方法、印刷方法、発送作業などを聞いた。



大会中、会館内の和室2部屋でお茶のサービスがあった。どちらも緑の星の形の手作りの和菓子が準備され、やや緊張気味の少女がていねいに返しにのせて出してくれた。お茶の味は部屋によって違った。注ぐお湯が、一方では電気ポット、隣室では電気コンロの上の鉄瓶だった。どちらがおいしかったかは明白である。

山田

# Kiel mi fariĝis un ciklulo

Ikai Yosikazu

Por mi la okazo unuafoje vidi un cikladon propraokule kaj nudokule estis sur la scenejo de najbara varmfontejo. Mi estis knabo kaj tiam mi de tempo al tempo kun miaj parencoj vizitis tiun varmfontejon de la hejmkvartalo, kie oni prezentis diversajn amuz-aĵojn, kantadon, teatraĵeton kaj tiel plu.

Foje sur la scenejon venis un ciklistino. Tio estas la unua okazo al mi vidi un ciklon. Ŝi ŝirmis sian okulparon per okulmasko nokte-nigra. Sur la planko oni starigis brulantajn kandelojn kaj la blindigita un ciklistino rajdis un ciklon kontraŭ la kandelvicon. Se ŝi sukcesus trapasi la vic-spacon ne faligante kandelojn, estus mirinde. Fakte ŝi sukcesis: post trapaso la kandeloj daŭre staradis brulante. Aplaudon!

Retrospektive, tiu spektaklo estas mia prasperto kiel un ciklulo, kaj donis al mi senkonscian ekkovon por tiu sportarto.

Mi povus mencii ion alian kvankam tio ne rekte rilatas un ciklon. Tio estis televid-programero de bildstrio el mia knaba tempo. La prgramo nomiĝas *Wonder-Three* (angle Miri Tri). La protagonistaj trio estis tri eksterteranoj kiuj maskiĝas en tri teraj animaloj. Kaj ili migras sur latero en veturilo pneumaforma kvazau unu radego. Postlonge, do post alpreno de un ciklo kiel hobia mi eksciis ke tre simila veturilo ja fakte ekzistas, kaj oni nomas tion ne un ciklo sed *monocycle* angle.

La dua mejlŝtono al mi kiel memorinda kontakto kun un ciklo estis kiam mi partoprenis la esperantan intensivan kurson nomatan Kunloĝado. Unu el la kunloĝadaj kutimoj estas la prezentado far la partoprenantoj en la fina vespero. Foje kiam la kunloĝado okazis en Saitama-gubernio partoprenis Halpern Jack (春遍雀来), konata un ciklulo kaj poligloto kaj kompilinto de ĉinlitera vortaro por angllingvanoj. Mi ankoraŭ memoras lian prezentadon de un ciklo.

La prezento de Halpern Jack estas la dua fojo al mi vidi deproksime un ciklan prezentadon. Tamen ĉar mi estis de la knabaj aĝoj tre mallerta sportulo. Do kvankam certe estis destinite al mi iam poste ekpreni un ciklon, mi dum longega tempo ne havis emon nek intereson pri un ciklo.

La tria mejlŝtono de mia antaŭ-historio un cikla estis jam sufiĉe en la 20a jarcento. Fakte intertempe en Japanio estis movado enkonduki un cikladon en la edukan kampon kaj tio brile portis frukton kaj multaj geknaboj ĝuadis un cikladon sur strato kaj lernejoj kortoj. En ĉiu biciklovendejo pendis porknabaj un cikloj. Eĉ mi kiel mallerta sportisto kaj ĝisosta kabinetulo

esperanta ne povis ne rimarki tiajn unicklojn alloge pendantajn, kaj ofte vidante tiajn pendantajn unicklojn enŝaltiĝis io en mia konscio.

La decida momento venis kiam mi iutage aŭte hejmenveturis. Kiam mi proksimiĝis al iu ponto, knabo renkonte al mi descendis per unickle la deklivon cisan. Li iel impresis min, kaj ĝistiam subpremita sopiro al tiu veturilo surfaciĝis en mian konscion. Jes, mi nun eksciis klare ke jam en mi nestas la deziro al unicklo! Tiu konscio fariĝis pli kaj pli granda impeto. Ekstravaganca sed nevenkebla kaj nesubpremebla ideo ĝi estis. Kvankam mi samtempe havis timon ke eble mi en mia aĝo ne povos sukcesi en unicklado, sed finfine venkis arda volo akiri tiun arton kaj ĝui ĝin. Kaj mi aĉetis unicklon. Estis la printempo de 2003.



Unicklado

La aĉetita unicklo havis broŝuron instruan kaj la titolo estis Ĉiu povas rajdi unicklon. La aŭtoro estas neniu alia ol tiu Halpern Jack! Hazarda sed iel bonaŭgura. Kiel mi ekzerciĝis estas jam tute alia temo, kiu bezonas alian artikolon. Sed mi menciu nur ke jam unu monaton poste mi aliĝis al *Japan Unicycling Association*.

Nun en 2009 mi povas eĉ prezenti okarinan ludadon aŭ pilkĵongladon dum alterne pedali-retropedali unicklon.

編集後記・紙で110部、PDFで7通、e-メールテキスト（盲人用に）で2通。作製で維持員のほかに贈呈や機関誌交換をしています。きれいな版面、タイプミスのないように注意しています。誌面を会員相互の活動の発表の場にしてください。「センター通信」はお申し出があれば電子メールでPDF形式のカラー版をお送りします。電子媒体をご希望の方はメールで委員までお知らせください。誌面について感想もお寄せください。

4月にセンター保管の書籍や雑誌を虫害から守るためにアースレッドノンスモーク霧を使用しました。

山田義